

「中部りんくう都市」を歩く

今日 17 日は中部国際空港「セントレア」開港 10 周年である。10 年前の「騒がしさ」を思い起す。写真は朝日新聞 2 月 15 日朝刊による。「中部空港 ハブ道半ば」の見出しだが、当時どれだけ「ハブ空港」が喧伝され、幻想が振りまかれたことか。いま再び「リニア頼み」「リニア幻想」の様相である。同じことをまた繰り返すのか。



昨年 11 月初めに、空港と対岸部についてレポートした。昔はよく調査・講演で出向いたが、最近はなかなか行けなかった。当時「前島」と呼ばれた「中部りんくう都市」をこの目で確かめたかった。先日、朝早く常滑に行き、そこから歩いた。まずは「めんたいパーク」に向かった。明太子は好物であり、腹が空いていたのが、その理由である。近いようで遠くに感じたのは、空き地が多くて距離感がつかみにくかったからだ。明太子の赤い「目印」が見えると、ほっとした。とれたての明太子ビッグおにぎりを食べ、再び道路に出て、りんくう常滑駅に向けて歩いた。

「めんたいパーク」横には、大きな敷地に会員制スーパー「コストコ」がある。重そうな商品を車に詰め込む人を見かけた。休日は広大な駐車場が満杯になるという。車のない者にとって買い物できる場所ではない。交差点を渡ると、昨年からの建設が始まったイオンモールの広大な敷地がつづく。部分的に工事が進められている。今秋オープンと書かれた看板があったが、まだ建物らしきものは見えなく、これでオープンできるのかと思った。



りんくう常滑駅の周辺はホテルや結婚式場、飲食店などが立地して、一見すると洒落た感じの「まち」になってきたが、閑散としていた。常滑競艇場の方に広がる空き地には、「中部臨空都市分譲中」という大きな看板が立っていた。

空港島や「前島」埋立から 15 年、セントレア開港から 10 年が経過する。伊勢湾常滑沖の埋立について警鐘を鳴らしてきたが、こうして埋立地を複雑な気持ちで歩いた。それほど距離ではないが、とにかく疲れを感じた「まち」歩きであった。

(2015 年 2 月 17 日)